

平成30年度 事務事業評価シート

(単位:千円)

事業属性	事業名(コード)	くりのみ園運営事業			430320	担当課	子ども政策室	
	開始年度	平成1(1989)	終了予定年度	平成32(2020)	作成責任者	樋口 正信		
	歳出費目	款) 民生費	項) 児童福祉費	目) 児童福祉施設費	決算附属資料	140・142	頁	
	施策の大綱	障害のある人の福祉の充実			関連計画等	福知山市子ども・子育て支援事業計画 第1期福知山市障害児福祉計画		
	施策名	自立と社会参加を促進する			根拠法令等	児童福祉法		
	事業区分	<input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 国府補助事業 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独事業 <input type="checkbox"/> その他 ()						
基礎情報	事業目的 (あるべき姿)	発達やことばの育ちに課題のある子どもとその家庭のために、早期から療育を行うことで日常生活における基本的な動作を習得し、集団生活に適應できる力をつけるよう支援する。 また、親子通園により、子ども一人ひとりの発達を支え、家庭での豊かな子育てが出来るよう支援する。						
	対象者	療育の必要がある就学前の子どもとその保護者	対象者数	106	一人当たりコスト	882.75		
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他 〈委託先・実施主体等〉 アムスセキュリティサービス(株)、(株)旭開発ほか						
	事業概要	・安心できる環境と遊びを提供する親子療育 ・保護者への相談支援事業 ・職員研修						
	主な経費と 具体的内容 (H29実績)	項目		具体的な内容			H29経費	
		報酬		療育スタッフ(作業療法士、歯科医、言語聴覚士、療育相談員、母親相談員)			750	
		賃金		臨時職員賃金(児童指導員)			9,876	
旅費、負担金補助及び交付金		職員研修旅費、研修参加負担金			334			
需用費、役務費、委託料		消耗品費、光熱水費、燃料費、電話代、保険料、車検代、機械警備費、廃棄物処分料等			3,827			
使用料及び賃借料ほか		複写機使用料、フレキサスインク、パソコン、職員机等			597			
関連事業								
予算と執行の 状況	区分			H28	H29	H30	H31要求	
	事業費	当初予算・・・①		12,898	16,771	18,289		
		補正予算等・・・②		202	0	0		
		繰越し等・・・③		0	0	0		
	財源内訳	一般財源		1,940	0	0		
		国支出金		0	0	0		
		府支出金		0	0	0		
		地方債		0	0	0		
		その他特財		11,160	16,771	18,289		
		特定財源名称 (H29実績)	特定財源名称 くりのみ園利用者負担金		14,380	1,004	負担金	6 頁
	職員人件費	従事職員数(正職/嘱託)		8.35/0	9.6/0	9.73/0	/	
概算人件費・・・④		66,800	76,800	77,840				
総事業費(①+②+③+④)・・・⑤			79,900	93,571	96,129			
執行状況	執行額・・・⑥		12,944	15,384				
	執行率(⑥/(①+②+③)×100)		98.8%	91.7%				
業績指標	成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30	最終目標	
		くりのみ園通園率	%	82.4	88.4	/100	100	
				/	/	/		
	活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30	最終目標	
		くりのみ園通園回数	回	1650/2003	2138/2419	/	通園回数=療育日数	
		単位あたりコスト		7.8	7.2			
			/	/	/			
	単位あたりコスト		0.0	0.0				

		項目	評価	評価に対する説明
一次評価 ▽担当課による自己評価△	必要性	市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か	○	発達に課題のある子ども達一人ひとりが保護者とその家族を含め、丁寧な療育、支援、相談を受ける場として必要性は高い。
		民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か	○	
		目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	○	
	効率性	受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か	○	児童福祉法に基づく受益者負担になっており、妥当である。
		他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか	○	
		コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	△	
	有効性	成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか	○	定員60名に対して58名の利用があり、拡充の目標をほぼ達成できた。
		活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか	△	
		先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	○	
		目的及び指標等の達成状況に対する評価	親子通園による丁寧な療育を行い、小集団の良さを感じ、休まず通園していただくことを目標にして、平成29年度は定員が増えたにも関わらず通園率を上昇させることができた。	
	今後の課題及び方向性	平成30年度からくりのみ園運営事業の中で学童期支援教室を実施していくが、療育の運営に支障にならない職員体制や時間設定等、検討が必要である。 日常的に職員同志が主体的な学び合う研修をとり入れるなど工夫し、指導員の専門性を高める。		
庁内及び外部による評価	二次評価 (庁内) 【行革担当課記入】	所見		
		<ul style="list-style-type: none"> ・定員では計れない、受入態勢の限界人数はどれくらいか → 現状で一杯(50名、+5名のダブル) ⇒ 体制の充実が急務、当面、臨職から嘱託への転換を図りつつ、今後の受入見通しを踏まえつつ必要な人的体制(態勢)のあり方を定めるように ・上記、体制の充実によって、支援教室の拡充を図るべき ・職員配置のことについては、現状を訴えていただき、改善による効果、対象者へのメリットなどを整理して要望されたい 		
	三次評価 (外部) 【行革担当課記入】	所見		
来年度方針	担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分	内容	
		<input type="checkbox"/> 廃止/休止 <input type="checkbox"/> 他事業と統合し組替 <input type="checkbox"/> 予算縮減を伴う見直し <input type="checkbox"/> 予算増減のない見直し <input type="checkbox"/> 予算拡充を伴う見直し <input type="checkbox"/> 事業の見直しなし		
	予算への反映 【財政担当課記入】	予算額の反映状況(対H30)	担当課の見直し・要求方針に対する所見【行革担当課記入】	
		<input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 組替 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 廃止/休止 <input type="checkbox"/> 拡充		

平成30年度 事務事業評価シート

(単位:千円)

事業属性	事業名(コード)	学童期支援教室運営事業			430375	担当課	子ども政策室	
	開始年度	平成29(2017)	終了予定年度	平成29(2017)	作成責任者	樋口 正信		
	歳出費目	款) 民生費	項) 児童福祉費	目) 児童福祉施設費	決算附属資料	142	頁	
	施策の大綱	障害のある人の福祉の充実			関連計画等	福知山市子ども・子育て支援事業計画 第1期福知山市障害児福祉計画		
	施策名	自立と社会参加を促進する			根拠法令等	児童福祉法		
	事業区分	<input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 国府補助事業 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独事業 <input type="checkbox"/> その他 ()						
基礎情報	事業目的 (あるべき姿)	集団生活に課題のある学童期の児童に、コミュニケーション能力等の社会性を育てるための支援教室を行い、成功体験を増やし、自己肯定感を高める支援を行う。						
	対象者	社会性に課題のある小学1、2年生とその保護者	対象者数	10	一人当たりコスト	59.40		
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他 <委託先・実施主体等>						
	事業概要	・ソーシャルスキルトレーニングの実施 ・職員研修						
	主な経費と 具体的内容 (H29実績)	項目		具体的な内容			H29経費	
		報償費		職員研修講師謝礼			60	
需用費		消耗品費			22			
役務費		保険料			7			
備品購入費		小学生用机、椅子			65			
関連事業								
予算と執行の 状況	区分			H28	H29	H30	H31要求	
	事業費	当初予算・・・①		0	594	0		
		補正予算等・・・②		0	0	0		
		繰越し等・・・③		0	0	0		
	財源内訳	一般財源		0	0	0		
		国支出金		0	0	0		
		府支出金		0	0	0		
		地方債		0	0	0		
		その他特財		0	594	0		
		特定財源名称 (H29実績)	放課後等デイサービス障害児通所給付費		145	負担金	6	頁
		放課後デイサービス利用者負担金		6	負担金	6	頁	
職員人件費	従事職員数(正職/嘱託)		0/0	0.55/0	0/0	/		
	概算人件費・・・④		0	0	0			
総事業費(①+②+③+④)・・・⑤			0	594	0			
執行状況	執行額・・・⑥		0	154				
	執行率(⑥/(①+②+③)×100)		-	25.9%				
業績指標	成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30	最終目標	
		支援教室参加率	%	/	95.7	/	100	
				/	/	/		
	活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30	最終目標	
		支援教室参加回数	回	/	22/23	/	参加数=支援教室回数	
		単位あたりコスト		-	7.0			
			/	/	/			
	単位あたりコスト		0.0	0.0				

		項目	評価	評価に対する説明
一次評価 ▽担当課による自己評価△	必要性	市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か	○	保護者のニーズにより実施した初めての学童期の児童を対象にした事業であり、必要性は高い。
		民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か	○	
		目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	○	
	効率性	受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か	○	児童福祉法に基づく受益者負担になっており、妥当である。
		他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか	○	
		コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	○	
	有効性	成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか	○	小集団の中で、自分の思いを出したり、相手の気持ち考えたりする場の提供ができ、社会性の向上が一定図れた。
		活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか	○	
		先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	○	
		目的及び指標等の達成状況に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の中で安定して暮らしていけるためのスキルを身につけるために、自らすすんで楽しみながら取り組むメニューを準備した。また、怒られることのない環境の中で自尊心を高めたり、気づかせる機会になった。 ・小集団の中で子ども達が社会性を高めていくために、どのように自分の思いを伝えたり、相手の気持ちを理解したり、しようとするのか保護者が見て、気づけるよい機会となった。 	
	今後の課題及び方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度からは、くりのみ園運営事業に合併して実施する。 ・児童発達支援と放課後等デイサービスを行うために、職員確保が課題である。 		
庁内及び外部による評価	二次評価 (庁内) 【行革担当課記入】	所見		
		・くりのみ園運営事業へ		
来年度方針	三次評価 (外部) 【行革担当課記入】	所見		
来年度方針	担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分	内容	
		<input type="checkbox"/> 廃止/休止 <input type="checkbox"/> 他事業と統合し組替 <input type="checkbox"/> 予算縮減を伴う見直し <input type="checkbox"/> 予算増減のない見直し <input type="checkbox"/> 予算拡充を伴う見直し <input type="checkbox"/> 事業の見直しなし		
来年度方針	予算への反映 【財政担当課記入】	予算額の反映状況(対H30)	担当課の見直し・要求方針に対する所見【行革担当課記入】	
		<input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 組替 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 廃止/休止 <input type="checkbox"/> 拡充		

平成30年度 事務事業評価シート

(単位:千円)

事業属性	事業名(コード)	障害者講座事業		420301	担当課	生涯学習課		
	開始年度	昭和52(1977)	終了予定年度	平成32(2020)	作成責任者	崎山 正人		
	歳出費目	款)教育費	項)社会教育費	目)社会教育総務費	決算附属資料	238	頁	
	施策の大綱	障害のある人の福祉の充実			関連計画等	-		
	施策名	自立と社会参加を促進する			根拠法令等	-		
	事業区分	<input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 国府補助事業 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独事業 <input type="checkbox"/> その他 ()						
基礎情報	事業目的 (あるべき姿)	知的障害者、視覚障害者及び聴覚障害者に、学習と交流の機会を提供することで、仲間とともに充実した生活を送り、自ら進んで社会参加できるように支援する。						
	対象者	知的障害者、視覚障害者、聴覚障害者	対象者数	130	一人当たりコスト	19.90		
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他 <委託先・実施主体等> 京都ユニオンサービス(バス運転代行)						
	事業概要	●宿泊体験、視察学習、料理教室など各種講座を実施 障害者青年学級 11回/年、視覚障害者成人講座 4回/年、聴覚障害者成人講座 4回/年 ●平成27年度より、「障害者青年学級事業」と「障害者成人講座事業」を統合。						
	主な経費と 具体的内容 (H29実績)	項目		具体的な内容			H29経費	
		報償費		講師・指導者等謝礼			77	
旅費		宿泊体験、視察学習職員、指導者旅費			30			
需用費		文集印刷製本、物品購入(マジック、石鹸等)、燃料費			60			
役務費		保険料等			25			
委託料、使用料及び賃借料		バス運転代行料38、必要施設入館料20			58			
関連事業								
予算と執行の 状況	区分			H28	H29	H30	H31要求	
	事業費	当初予算・・・①		451	386	366		
		補正予算等・・・②		△ 56	△ 39	0		
		繰越し等・・・③		0	0	0		
	財源内訳	一般財源		395	347	366		
		国支出金		0	0	0		
		府支出金		0	0	0		
		地方債		0	0	0		
		その他特財		0	0	0		
		特定財源名称 (H29実績)					頁	
	職員人件費	従事職員数(正職/嘱託)		0.29/0	0.28/0	0.28/0	/	
概算人件費・・・④		2,320	2,240	2,240				
総事業費(①+②+③+④)・・・⑤			2,715	2,587	2,606			
執行状況	執行額・・・⑥		373	250				
	執行率(⑥/(①+②+③)×100)		94.4%	72.0%				
業績指標	成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30	最終目標	
		延べ参加人数	人	360/380	314 /380	/380	380	
		出席者/教室・講座登録者	%	61	60		65	
	活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30	最終目標	
		講座開催数	回	19/19	18/19	/19	19	
		単位あたりコスト		19.6	13.9			
			/	/	/			
	単位あたりコスト		0.0	0.0				

		項目	評価	評価に対する説明
一次評価 ▽担当課による自己評価△	必要性	市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か	○	・知的障害者、視覚障害者及び聴覚障害者が社会参加の場を拡大することになることから市が取り組む必要性は高い。
		民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か	△	
		目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	○	
	効率性	受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か	○	・各種講座については、年度当初に対象者と一緒に計画し講座内容を充実するよう実施している。
		他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか	○	
		コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	○	
	有効性	成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか	△	・活動実績は概ね達成している状況であり、成果実績についても約90%の達成率となっている。
		活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか	○	
		先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	△	
		目的及び指標等の達成状況に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●成果実績としては、約90%の達成率となっており、目的を十分に達成できていることは評価できる。 ●青年学級：定期的、計画的な教室(講座)事業実施により、知的障害者の社会参加の契機を提供でき、明日への意欲と希望を見出す機会となっている。また、事業を通じて仲間との交流にもなった。 ●視覚・聴覚障害者：視覚、聴覚・言語に障害がある人に対し、様々な講座を通して学習の機会を提供し、互いに希望を見つけ、明日への活力を得るための機会となっている。 	
	今後の課題及び方向性	<ul style="list-style-type: none"> ●視覚障害者・聴覚障害者への講座については、社会福祉課主管事業との重複を避け、有効な財源の活用とコスト削減のために、社会福祉課との連携が必要。 ●青年学級：在籍者に比して、仕事や家庭の事情等で、参加できるメンバーに偏りがある。 ●視覚・聴覚障害者：参加者が、視覚及び聴覚障害者協会の会員が主体となっており、協会会員以外の参加促進等の手法等を考える必要がある。 		
庁内及び外部による評価	二次評価 (庁内) 【行革担当課記入】	所 見		
		<ul style="list-style-type: none"> ・延べ参加人数、年間の講座の開催数、講座の参加率をあらためて確認してほしい。 ・障害者に対する生涯学習の場の提供という観点からは、参加率や満足度の向上に向け本事業において積極的に活動を行っていく必要があるが、関係課(生涯学習課、文化・スポーツ振興課、障害福祉課等)で、障害者の社会参画という観点で協議し、活動の幅を広げていくことも検討いただきたい。 ・今後も、講座の内容を対象者とともに計画したうえでニーズを反映した講座の設置をよろしく願います。また、より積極的な参加を促すことも願います。 ・障害のある人の社会参加を促進する事業であり、必要性は大いに感じる。 ・障害のある人を対象とする事業や人権に関する啓発事業などで感じるのは、当該事業等に参加しない・参加できない対象者への対応である。どこまで費用をかけてそれを追いかけるかという面もあり、また、解決の難しいことであるが、事業の企画や運営に当たっては常にそういった市民の存在について留意いただきたい。 		
	三次評価 (外部) 【行革担当課記入】	所 見		
来年度方針	担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分	内 容	
		<input type="checkbox"/> 廃止/休止 <input type="checkbox"/> 他事業と統合し組替 <input type="checkbox"/> 予算縮減を伴う見直し <input type="checkbox"/> 予算増減のない見直し <input type="checkbox"/> 予算拡充を伴う見直し <input type="checkbox"/> 事業の見直しなし		
	予算への反映 【財政担当課記入】	予算額の反映状況(対H30)	担当課の見直し・要求方針に対する所見【行革担当課記入】	
		<input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 組替 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 廃止/休止 <input type="checkbox"/> 拡充		